



しびき



CONTENTS

- 8 平成21年 暦年出荷実績
- 6 第7回 AOSD 国際会議 第1回配布状
- 5 新社長登壇 | (株)前田製作所 / 前田氏
- 4 我が社の生い立ち | 日鐵ドラム(株)
- 1 平成22年 賀詞交歓会



平成22年

賀詞交歓会



理事長あいさつ

工業会活動計画について

ドラム缶工業会の賀詞交歓会が1月14日(木)、鉄鋼会館で開かれました。同工業会を代表して、中島廣久理事長は本年の課題・活動について下記のように述べました。



皆さん、明けましておめでとうございます。

本日は、ご多用中のところ、経済産業省の小糸鉄鋼課長様をはじめ、多数の皆様のご出席を賜り、誠にありがとうございます。新年にあたり、ひとことご挨拶させていただきます。

さて、昨年はまさに「どん底」からのスタートの一年でした。2008年秋のリーマンショックに端を発した世界同時不況の影響で、わが国の新缶生産量は2月に前年比50%を割り込む水準まで落ち込み、業界全体が危急存亡の状況に陥ったと言っても過言ではありませんでした。幸い中国経済の急回復にともない中国向け化学品の輸出に支えられ、予想を上回るペースで生産は回復し、現在ではピーク時の約80%の水準に戻っております。ただ、この回復は化学業界の輸出に支えられたところが大部分で、日本経済の回復は遅く、デフレスパイラルを懸念する声もあることなどから、本格的な回復にはなお時間を要すると覚悟しておく必要があると思います。



私は、昨年、「標準化」「国際活動」「更生缶業界との連携」「安全・衛生」を工業会活動の柱としていくことを述べました。「標準化」については、オープンヘッドドラム用ボルト式バンドの工業会規格を制定し、バンド仕様の一層の共通化を図りました。「国際活動」では、今年9月にAOSD国際会議の福岡開催を決定しました。また、更生缶業界とは共通課題である物流容器の市場動向に関する共同検討を行いました。ペール関係では、将来の金型メーカーの減少を見込み、工業会メンバーが共同で金型メーカー調査を行っています。今年も、工業会に求められる課題を敏感に察知し、スピーディーかつ大胆に対応していきたいと考えております。

さて、①今年9月に福岡で第7回AOSD国際会議を開催することとしています。開催国として会議成功のため、準備を進めておりますので、皆様方のご協力をお願いいたします。また、②再生缶業界との間では、昨年に引き続き共通するテーマで検討を進めることとしております。世界的にドラム缶の薄手化が進むなかで、厚さに関する最適解があるのか、あるとすればどのような形なのか、考えながら取り組んでいきたいと考えています。③安全につきましても、災害事例の情報開示などの地道な活動を継続していきたいと考えております。④さらに、今年は環境問題が工業会活動の重要な課題であると考えます。経済産業省の皆様のご指導をいただきながら環境問題への取り組みも強化していきたいと考えております。

今年一年も大きな社会環境の変化の中での工業会活動となると思いますが、皆様方とともに、次の時代につなげる工業会活動の姿を作り上げていきたいと考えております。会員各社のご協力をお願いします。

最後になりましたが、今年一年が皆様方にとりまして実り多い一年となることを祈念し、新年にあたっての挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



経済産業省製造産業局鉄鋼課 小糸正樹課長

理事長の挨拶に続き、経済産業省製造産業局鉄鋼課の小糸正樹課長より、概要下記の祝辞をいただきました。

本日、ドラム缶工業会の賀詞交歓に、このように多くの皆様のご参集のもと、お招きいただき心からお喜び申し上げます。昨年、厳しかったことは多くを申し上げませんが、昨年後半から経済対策の効果が表れはじめ、7～8割程度に回復したとみられます。一方で、デフレ、円高の問題など、今年に入っても不透明な状況が続いていると認識しております。昨年12月初に、景気、雇用、環境の3つを柱とする、予算規模7兆円強の緊急経済対策をまとめましたが、エコカー減税や家電エコポイントの延長など、補正予算で早期に成立させていくことが重要と考えております。年末には、中長期戦略として、現在のGDP500兆円弱を2020年に650兆円にもっていくという野心的な内容をとりまとめました。具体策では皆様のご意見をお聞きしながらまとめていきたいと思っております。このように短期的、中長期的なものを合わせて取り組んでいくことが最大の課題といえます。海外では、アジアの成長をいかに日本経済の成長に取り込んでいくか、国際展開をどう取り組むかも大きな課題の1つではないかと思っております。その



ほか、ドラム缶業界では、標準化、リサイクル、環境問題など課題が山積し、検討テーマはたくさんあるとは思いますが、これからの10年、勇気をもって実行することが問われていると思います。日本のドラム缶は輸送の手段として、安心・安全では世界に冠たるものがあり、環境面でも引き離しているメリットもあります。いずれにしても、政府経済見通し成長率1.4%を皆様と連携しながら実現し、昨年よりはるかに良い年にしたいと思っております。

続いて、日本ドラム缶更生工業会の本多宏和会長は概要次のように挨拶されました。

2009年は私ども変動の年で、アツという間に過ぎた感じがいたします。われわれドラム缶更生業界は厳しい状況で過ごしたわけですが、お陰さまで、新缶の皆様ほど落ちなかったようです。2009年でみますと、20%程度の落ち込みで、直近では90%くらいまで回復しているのではないかと考えております。昨年、島田洋七さんの講演会があり、関西学院大学の



日本ドラム缶更生工業会 本多宏和会長



ドラム缶工業会 長尾浩志副理事長(長尾製缶所社長)



ドラム缶工業会 山本雄造副理事長(山本工作所社長)

教授が、いまの危機の時代には前を向いてゆっくり真っ直ぐ歩いていくことだ、とおっしゃっていましたが、私もその通りだと思います。厳しい状況が続いておりますが、今後ご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

お二人からの祝辞のあと、長尾浩志副理事長(長尾製缶所社長)が乾杯の音頭で、次のように挨拶されました。

一昨年にリーマンショックがあり、ドラム缶業界は大変な状況にあります。このようなときこそ、ドラム缶工業会の発展のため、お集まりの皆様方のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年を迎え、未来に向かって、親睦を深めていただきたいと思います。

乾杯のご発声のあと、和気あいあいとした歓談、意見交換が行われました。

山本雄造副理事長(山本工作所社長)が中締めあいさつで、昨年よりはるかに良い年になるよう、皆様方と一致協力し、私どもも頑張っていきたい、と挨拶されました。

本年の賀詞交歓会には関係省庁、関係諸団体、会員各社、ドラム起案工業会関係者ら180名が参加、盛況のうちに終了しました。

我が社の 生い立ち

日鐵ドラム株式会社

日鐵ドラム株式会社・本社があるNDタワービル[写真:右上](東京都江東区亀戸1丁目)の敷地は、当社の前身のひとつである日本ドラム罐製作所が1932年にわが国で初めてドラム缶製造販売を始めた、記念すべき場所です。

日本ドラム罐製作所の創業は1931年の満州事変の翌年で、戦時体制の色を強めた時期であり、石油消費量が急速に上昇し、軍需を中心としてドラム缶の需要も急増しました。

その後戦中、戦後の激動期を切り抜け、経済成長に合わせて1959年には日本で最初のオートメーション工場である相模原工場が操業を開始しました。業界全体の月産高が5万本程度であった時代に、1工場で5万本以上の生産能力を有する最新鋭工場の誕生でした。1968年には、京葉地区への供給力増強を狙い、千葉県の新習志野に千葉工場を新設しました。

1960年代に入ると、薄鋼板の販売拡大を望む鉄鋼メーカーと、ドラム缶製造の近代化を進めるために資金が必要となったドラム缶メーカーのニーズが合致し、ドラム缶メーカーは大手鉄鋼メーカーの系列下に入るようになりました。その流れのなか、関西には関連ドラム缶メーカーを持たなかった八幡製鉄(現新日鐵)も薄鋼板の販路拡大を検討していました。丁度そのころ、北九州にある山本工作所は関西地区でのドラム缶製造を、同様に日本ドラム罐製作所も同地区でオートメーション工場の新設を検討していました。そして、この3社の意図がひとつに結実し、山本工作所、八幡製鉄、日本ドラム罐製作所の3社共同出資で1968年関西ドラム(現在の大阪工場)[写真:左下]が発足しました。

一方、名古屋地区でも1964年に石井産業の子会社として

東海ドラム(現在の名古屋工場)が設立され、その後、富士製鉄(現新日鐵)と三菱商事が資本参加しました。

この高度成長期に、全国でドラム缶の製造設備が10ライン新設され、ドラム缶業界は過当競争の状況下にありました。そのなかで新日鐵系



大阪工場(大阪府泉大津市)



NDタワービル(本社)



ドラム缶発祥の地の記念碑

メーカー3社がお互い鎬を削り、各社業績が悪化していたため、系列メーカーをひとつにして業界のトップメーカーになるよう、3社の合併案が浮上してきました。まず、1973年に関西ドラムと東海ドラムが合併して製鉄ドラムと改称し、その翌年、日本ドラム罐製作所と合併して現在の日鐵ドラムが発足しました。今年で発足36年、日本ドラム罐製作所創業からみれば78年になります。

また1993年には斉藤ドラムの関連会社であった山陽ドラム缶工業(岡山県倉敷市)を買取り、関連会社にしました。これで関東、中部、関西、中国地域への供給体制が整いました。

1995年には東京証券取引所第二部に上場しましたが、2007年、新日鐵グループの経営資源の最適かつ効率的な活用やグループ経営の機動性の向上を目的として、新日鐵の完全子会社となり上場廃止し、現在に至っております。

現在、人数は少なくなりましたが、長い期間日本ドラム罐製作所、山本工作所、関西ドラム、東海ドラム、山陽ドラム(斉藤ドラム)ならびに新日鐵出身者で構成されていたことから、多彩な企業風土や文化が入り混じっています。これが進取の気性と気概になり、誰にも負けたくない、常に先陣を確保するというチャレンジ精神を育み、現在では日鐵ドラムスピリットとなっています。

また、技術を重視し、早くから技術センターを設置して開発・研究に力を注いできました。具体的には、AEリークテスターなどのドラム缶関連設備の開発や、塗料などのメーカーとの共同研究・開発、新商品開発、部材の基礎研究などです。数年前に発生した内装塗料問題では、当社技術が需要家や業界の混乱を最小限に留めることに役立ったと自負しております。

当社は、山陽ドラムのほかに、ビル賃貸事業を営むエヌデー企業と、容器の充填機製造販売の日鉄ドラムテクノを関連子会社として業容拡大を図ってきました。ビル事業は安定した収益をもたらし、また充填機事業も高性能充填機分野では実績を積み上げており、現在では両社とも当社連結利益に大きく貢献しています。

今後も長い歴史のなかで培ってきた日鐵ドラムスピリットを引き継ぎ、お客様から信頼されるドラム缶メーカーとして、一層の努力を継続していきます。

株式会社前田製作所

産業用容器メーカーの先駆者として半世紀を超えてこの分野を牽引してきた前田製作所の新社長として、昨年8月にバトンを引き継いだ前田洋社長。今年2月の株主総会で役員体制も刷新した。「本来なら社長就任も今年2月ということなのでしょうが、一足先に社長就任。先の株主総会で役員体制も整って、私としてはこの2月から正式に社長になったという思いでいます」と、決意を新たにす。すでに「新社長カラーが随所にあらわれている」との社内評もある。

製造・営業・管理の コミュニケーションを密に

株式会社前田製作所 代表取締役社長



前田 洋

社内コミュニケーションを活性化
前田製作所は現会長の前田磯友氏が1946年(昭和21年)に個人事業として設立、1955年(昭和30年)には株式会社として発足した。この間、ドラム缶やペール缶などを中心とした金属容器メーカーとして日本の産業を支えてきた。新技術の導入やユーザーサービスなどで常に先駆的に事業を展開して今日に至っている。その実績と顧客信頼の上に立って、新社長として次代への展開を視野に、まず取り組んだのが「組織的運営にシフトしていくこと」であった。「当社はオーナー会社として、現会長のカリスマ性もあって、前へ前へと進んできた。この良さもあるが、今、社会が変わってきており、これまでのやり方でこの先ずっと事業を広げていけるのかというところ、どうかなどの疑問もあった。物流容器に対するニーズも、少量多品種や、ジャストインタイムでの納入、品質も一段と厳しくなるなど、大きく変わっている」という。その課題に対するひとつの答えが、組織的運営の強化であった。「営業サイドと製造サイドのコミュニケーションをもっと密にして、ポトムアップ的な発想で仕事に取り組むこと」などで、成果も出はじめています。

プラスチックペール缶のリサイクルで評価
前田製作所の良さ・強さについて、前田社長は「当社は金属ペール缶とプラスチックペール缶が2つの柱ですが、その他多様な各種容器の製造、販売を行っており、顧客の様々なニーズに的確に対応できること。そして社を挙げて環境への理解が深いということ」を挙げる。この強さを核にして次代へ展開することが当面の目標にもなる。前田社長は企業理念として「環境保全とリサイクル」「時代を反映する新技術の開発と提供」「グローバル化する物流に対応」を掲げる。その環境対応では、2007年にISO14001の認証を取得するとともに、資源の有効利用に積極的に取り組み、なかでもプラスチックペール缶のリサイクルシステムは高い評価を得ている。顧客の要請に応じて使用済みのペール缶を回収して、粉砕・ペレット化し、プラスチック原料に戻す仕組み。廃棄物処理法の広域認定(環境省)も取得し、長柄(千葉県)と周南(山口県)の2カ所のリサイクルセンターを運営している。両センターでの再生能力はそれぞれ1日最大4トンと規模も大きい。顧客の廃棄物処理対応への手助けともなり、環境貢献、社会貢献の意味合いも強い取り組みといえる。

技術力・開発力で存在感高める

新技術の開発と提供は、これまでも同社の特色のひとつで、鋼製ドラム缶の多重巻製造技術の導入とその技術提供など、今日のドラム缶産業やペール缶市場を支えるものも少なくない。今後も技術開発、製品開発には力を注ぐが、新たな対応では「単独部門であった商品開発の機能を製造現場に移した。開発だけやっているとしても理想論になってしまう。それはそれでいいところもあるが、具体的な製品を理解している製造部門が開発も担うことで様々な情報のフィードバックもできる。それが顧客への提案にもつながる」と期待も大きい。

主力のペール缶事業でも顧客ニーズへの積極対応を続けている。「かつて米国で聞いた話ですが、ペール缶需要では、内容物の関係で金属でなければならぬものが30%、プラスチックでなければというのが30%、残る40%がどちらでも使えるが値段の安いほうを、ということ。金属もプラスチックも両方必要があるということ」。現状、同社では金属とプラスチックが「50対50に近くなっている」というが、今後、プラスチックペール缶の需要の伸びも予想する。そうした市場への対応も含めて主力の千葉工場をリニューアルし、インジェクション(射出成形機)の設備更新も進めている。油圧式から電気式に切り替えるもので、すでに4台を切り替え、今年5月までにさらに2台も電気式に更新する。

「週に2回くらいは、工場に行きたいのだが」という前田社長。これまで製造現場を中心に動き回っていたが、今はそうした時間がなかなか取れない。「製造現場からものを見ることは大事なこと、いいアイデアもそこから生まれる」ともいう。製造、営業、管理と全社を挙げたコミュニケーションを密にした取り組みに期待がかかる。

Further Challenges for Steel Drums in the Future

First Circular

September 8 – 9 2010
Fukuoka, Japan

Host Japan Steel Drum Association (JSDA)

Date September 8 (Wed) – 9 (Thu)
Optional Tour: 10 (Fri) – 11 (Sat)

Venue Hilton Fukuoka Sea Hawk (hotel)
2-2-3 Jigyohama, Chuo-ku, Fukuoka-city,
Fukuoka 810-8650 Japan



Mayor, Fukuoka City
Mr. Yoshida

AOSD 会員の皆様、および中島会長様

日本の福岡で開催されるエクサイティングな会議に皆様をお迎えできることを、非常にうれしく思っております。AOSDは様々な経済状況の中であっても、3年に一度、国際会議を開催していると伺いました。会議は業界に関する多くの重要な問題を話し合う目的で開催されるので、福岡および九州の各地を訪れ楽しむ時間も設けてくださるようお勧めいたします。九州は日本を構成する4つの主な島のひとつで、他のアジア諸国に最も近い場所に位置しています。福岡は他の都市と比べて非常に交通の便が良く、空港には多くの主要なアジアの都市と結ぶ直行便が発着しており、ダウンタウンの地域まで地下鉄でわずか10分の所にあります。福岡のその他の魅力は、伝統的な文化、新鮮な食材を使った海鮮料理、近代的な建築を誇る市街地と緑豊かな郊外の調和と対照にあります。

皆様が福岡にいらっしゃることを心から歓迎いたします。

吉田宏
福岡市長



AOSD Chairman and JSDA Chairman
Mr. Nakashima

皆様

アジア・オセアニア鋼製ドラム缶工業会 (AOSD) および日本ドラム缶工業会 (JSDA) を代表しまして、皆様を第7回 AOSD 国際会議にご招待できることを名誉に思います。会議は2010年9月8日から9日にかけて日本の福岡市、ヒルトン福岡シーホークホテルで開催されます。

リーマンブラザーズの破綻によって引き起こされた世界規模の金融危機の影響は世界の鋼製ドラム缶業界に及びました。リーマンショック後の経験を相互に交換し、将来へのさらなるチャレンジにむかってアイデアを共有できる時期に今や来たのではないかと考えております。鋼製ドラム缶の競争力のある機能の強化が強く期待されます。この会議では、鋼製ドラム缶の信頼性および価格競争力を含む様々な話題についての活発な討論を期待致します。この会議が世界的な好機会となることを確信いたします。

「鋼製ドラム缶の将来へのさらなるチャレンジ」

皆様の参加をお待ちしております。

中島廣久
AOSD 会長および JSDA 理事長
第7回 AOSD 福岡国際会議主催者

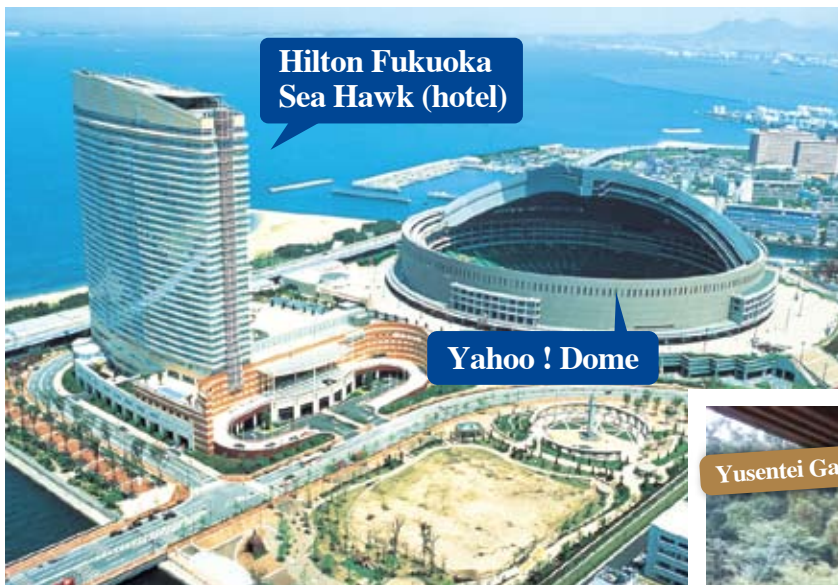
会議内容

日程		時間	事項
9月7日(火曜日)	会議前日	14:00 ~ 18:00	代表出席者登録
9月8日(水曜日)	1日目	9:00 ~ 12:00	開会式 ・開会の辞 ・ゲストのご挨拶 ・一般テーマの発表
		12:00 ~ 13:30	昼食
		13:30 ~ 17:00	市場動向に関する発表
9月9日(木曜日)	2日目	9:00 ~ 10:30	世界の動向に関する発表
		10:45 ~ 12:00	技術および環境の課題に関する発表
		12:00 ~ 13:30	昼食
		13:30 ~ 15:50	技術および環境の課題に関する発表
		16:00 ~ 17:00	総会および閉会式
		18:30 ~ 20:30	さよならパーティ
9月10日(金曜日)	会議後1日目	9:00 ~	選択可能なツアー
9月11日(土曜日)	会議後2日目	9:00 ~	選択可能なツアー



- 市場動向、技術および環境の課題に関する発表の申し込みをぜひお願いいたします。
- レadiesプログラム：1日目(9月8日)および2日目(9月9日)、市内観光およびショッピングを計画しています。詳細は決定次第お知らせします。
- 選択可能なツアー：会議後1日目(9月10日)および会議後2日目(9月11日)の選択可能なツアーを出席者および同僚の方々のために計画しています。詳細は決定次第お知らせします。
- 野球観戦：9月7日~11日(ナイター試合開始18:00)、9月12日(試合開始13:00)福岡ソフトバンクホークスの試合がヤフードームであります。詳細は決定次第お知らせします。
- 発表時間は基本的に25分となっています。発表20分、質疑応答5分です。

注記：主催者は必要とあればプログラムを変更する権利を保持しています。すべてのセッションは英語で行われます。



Association of Asia-Oceanic Steel Drum Manufacturers

C/O Japan Steel Drum Association(JSDA)
 Tekko Kaikan, 3-2-10, Kayabacho, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo, 103-0025 JAPAN
 Tel : +81-3-3669-5141 Fax : +81-3-3669-2969
 e-mail : drum.pail@jsda.gr.jp URL : http://www.jsda.gr.jp

平成21年 暦年出荷実績

平成21年暦年出荷実績は、下の表に示す通りです。
200L缶は、前年比21.9%減の11,731千本と大幅に減少しました。ペール缶も前年比15.8%減の

18,365千本となりました。
ステンレス缶の中小型缶を除く全ての缶種・用途別において、前年を大きく回りました。

平成21年 暦年出荷実績

(単位：千本)

缶種	用途	石油	化学	塗料	食料品	その他	合計	前年比(%)
200L缶 ()は前年比 下段は構成比		1,548 (71.5) 13.2%	9,198 (78.2) 78.4%	633 (88.6) 5.4%	188 (94.8) 1.6%	164 (90.7) 1.4%	11,731	78.1
ペール ()は前年比 下段は構成比		9,792 (89.8) 53.4%	7,421 (79.2) 40.4%	596 (75.3) 3.2%	0 - -	556 (74.4) 3.0%	18,365	84.2
100L缶		2	97	8	0	1	108	71.7
50L缶		0	107	0	0	17	124	56.7
アス缶型		0	8	0	0	0	8	-
その他容量缶		1	394	0	0	2	397	78.9
200L缶	亜鉛鉄板缶	0	53	1	2	8	64	79.5
	ステンレス缶	0	19	0	0	5	24	84.8
	小計	0	72	1	2	13	88	80.9
中小型缶	亜鉛鉄板缶	0	76	0	0	244	320	84.4
	ステンレス缶	0	8	0	0	1	9	105.0
	小計	0	84	0	0	245	329	84.9
合計		11,343	17,381	1,238	190	998	31,150	-
*前年比(%)		76.0	77.8	86.8	93.5	87.0	78.3	-
*構成比(%)		16.7	74.7	5.2	1.4	2.0	100.0	-

(注) *前年比および*構成比は、トン数による。

会員

《正会員》

- 斎藤ドラム缶工業(株)
- 山陽ドラム缶工業(株)
- JFE協和容器(株)
- JFEコンテナ(株)
- (株)ジャパンペール
- 新邦工業(株)
- ダイカン(株)
- (株)東京ドラム罐製作所

● 東邦シートフレーム(株)

- (株)長尾製缶所
- 日鐵ドラム(株)
- (株)前田製作所
- (株)山本工作所

《準会員》

- 森島金属工業(株)

《賛助会員》

- エノモト工業(株)
- (株)大和鐵工所
- 三喜プレス工業(株)
- (株)城内製作所
- 東邦工板(株)
- (株)水上工作所

ドラム缶工業会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
(鉄鋼会館6階)
TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969
e-mail : drum.pail@jsda.gr.jp

URL : <http://www.jsda.gr.jp>

ひびき No.59 (平成22年3月23日発行)

発行人 ドラム缶工業会
常務理事 事務局長 米倉 隆行